

令和5年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	北見市	代表者名	辻 直孝
担当者部署	総務部 人材育成主幹	連絡先電話番号	0157-25-1113
担当者役職	課長職	担当者氏名	及川 慎太郎
住所	090-8501 北海道北見市大通西3丁目1番地1		

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	下山 紗代子
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	北見地域定住自立圏1市4町の合同職員研修という形式で、データ活用やデータを扱う上でのリテラシーを職員に意識付けするため、氏の持つ豊富な知見や自治体での事例等を講義いただいた。座学編と実践編の2パートに分けて開催し、実践編ではエクセルを使っての実践的な内容を盛り込んでいただいた。研修参加者は若手職員が中心であったところ、自治体職員として必須と言えるEBPMに関する考え方や実業務でも活用できるデータ分析の手法などを講義いただいたことにより、参加した職員のリテラシー向上に寄与したものと考えます。
アドバイザーへの要望事項	特にありません。 （アドバイザーに対しては特段要望ありません。研修参加者が今回の研修で得た気づきを業務に活かし、また今後もリテラシー向上となるよう、機会や場を設けて取り組んでいきたい。）

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	期日・支援内容の変更あり	WEBでの手続き日	受付番号
	令和6年2月9日	講演(実地)	有	令和6年1月10日	1150
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年2月16日	講演（実地）	13時00分	17時00分	
				活動時間（分）	240
3-2. 派遣場所	会場名	北見市役所	最寄駅	北見駅／北見BT	
	所在地	北海道北見市大通西3丁目1番地1	最寄駅からの交通手段	徒歩3分	

4. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可	https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/
------	--------------------------------------	---

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	1市4町の職員研修参加者	32人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	データ活用や、データを扱う上でのリテラシー（お作法）という「考え方」の認識が職員に不足していることから、研修を通じて浸透させることでリテラシー向上に結びつくものと考えている。	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	データ活用や、データを扱う上でのリテラシー（お作法）という「考え方」を研修を通じて職員が認識することで、データを扱うスキルの向上や、施策立案の説得力等、データ活用や地域に向けたデータの発信、ひいては日頃の業務効率向上にも結びつくものと考えている。	
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	北見地域定住自立圏1市4町の合同職員研修という形式で、データ活用やデータを扱う上でのリテラシーを職員に意識付けするため、氏の持つ豊富な知見や自治体での事例等を講義いただいた。座学編と実践編の2パートに分けて開催し、実践編ではエクセルを使っての実践的な内容を盛り込んでいただいた。また、講義後は座談会形式で、研修参加職員からの質問に対して、各業務の担当者が抱える課題や悩みについてアドバイスをいただいた。	

支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	今回は研修形式ということもあり、直接、具体的な取り組みに結びつくものではないが、アンケートの回答内容を踏まえると多くの気づきが生まれていたと捉えている。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 (職員研修のため具体的な成果物は無し)	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	研修に参加した職員が得た多くの気づきを具体的な取り組みに結びつけるよう、各職員は職場に持ち帰り自己の業務と照らし合わせて考えていく必要がある。 また、DX推進部門においては、事業立案や各現場からの相談事項についてEPBMの観点を入れて対応していく必要があると認識した。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 参加者からの回答を要約すると、データの活用と住民ニーズの把握の話やアンケートの作り方等、客観的なデータを用いる重要性を認識した話や、データを武器として、魅せ方の工夫、テクニックの話、DXの観点や重要性に気付いた等の肯定的な意見でした。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
事業の最終的な目指す姿	今年度の研修の開催結果を踏まえ、来年度以降の職員の人材育成面での取り入れ方や、実際に事業立案や事業評価を行ううえでのデータ指標の重要性についても庁内に普及させていく必要がある。	

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

